

歴史認識と歴史教育Ⅱ

— 記憶の継承と歴史教育の課題 —

Historical Awareness and History Education (Part II) :
Historical Commemoration and the Tasks of Teaching

日 時：2010年11月20日（土）13時～18時

場 所：関西大学 千里山キャンパス尚文館 1階マルチメディアAV大教室

カン リョン ホム
姜 龍 範 (延辺大学人文社会科学学院 院長)

「中国朝鮮族の視覚からみた日本の歴史教科書改訂問題」

ハ ジョン ムン
河 棕 文 (韓神大学日本地域学科 教授)

「韓国における日本軍『慰安婦』へのまなざしの亀裂」

マルティン・リーパツハ (フリッツ・パウアー研究所ユダヤ博物館教育部門長)

「時代の証言の後にくるもの—メディアによる記憶と歴史認識—」

Dr. Martin Liepach

Was kommt danach? Mediale Erinnerung und Geschichtsbewusstsein am Ende der Zeitzeugenschaft

使用言語：日本語・中国語・朝鮮語・ドイツ語（通訳付）



グローバル化が進む世界で、種々の困難を抱えながらも国境を越えた平和共存圏を目ざす「欧州連合」(EU) に対し、「東アジア共同体」構想が議論されている。しかし、そのためには相互理解への努力が不可欠で、歴史認識の「接近」はそのための重要な役割を果たし得る。

関西大学人権問題研究室では2007年、ファルク・ピンゲル氏（ドイツ国際教科書研究所副所長）、ウォジミエシュ・ボロジェイ氏（ワルシャワ大学歴史学部教授）、高嶋伸欣氏（琉球大学教授）を招き、「歴史教科書をめぐるドイツ・ポーランド接近の道」と国内の沖縄をめぐる歴史教科書記述の問題に関するシンポジウムを開催した。

その経験をもとに、いわゆる「韓国併合に関する条約」締結100年を経た本年、中国から姜龍範氏、韓国から河棕文氏、ドイツからマルティン・リーパツハ氏を招き、シンポジウム「歴史認識と歴史教育Ⅱ」を開催する運びとなった。前半では、戦後65年を経て東アジアで問い続けられる日本の歴史認識・歴史教育の問題について論じる。後半では「歴史の証言者」が姿を消していくなか、メディアを活用し「記憶」を継承することで多様な歴史教育を進める取り組みについて論じる。植民地支配と戦争の記憶の社会的継承活動を通じて、国、人種・民族、世代を越えた相互理解の基盤を形成する作業が、グローバル化時代の平和構築に重要な意味を持つことが明らかになるだろう。

カン リョン ホム
姜 龍 範 (延辺大学人文社会科学学院 院長)



1960年生
1999年 延辺大学大学院歴史学専攻博士課程修了(博士号取得)
1991年11月～1993年11月 東京大学社会科学研究所にて研究
2001年2月～2003年4月 早稲田大学アジア太平洋研究センターにて研究
研究領域：東北アジア国際関係、朝鮮半島問題研究
著書：『近代中朝日三国の間島朝鮮人政策に関する研究』(黒龍江朝鮮民族出版社、2000年、単著)、『清代中朝日関係史』(吉林文史出版社、2006年、共著)など
論文：『韓国独立運動と中国』(『朝鮮族文化研究(2)』、黒龍江朝鮮民族出版社、1997年)、『“日韓合併”と間島朝鮮人の国籍問題』(『東疆学刊』1999年4期、延辺大学出版社)など

ハ ジョン ムン
河 棕 文 (韓神大学日本地域学科 教授)

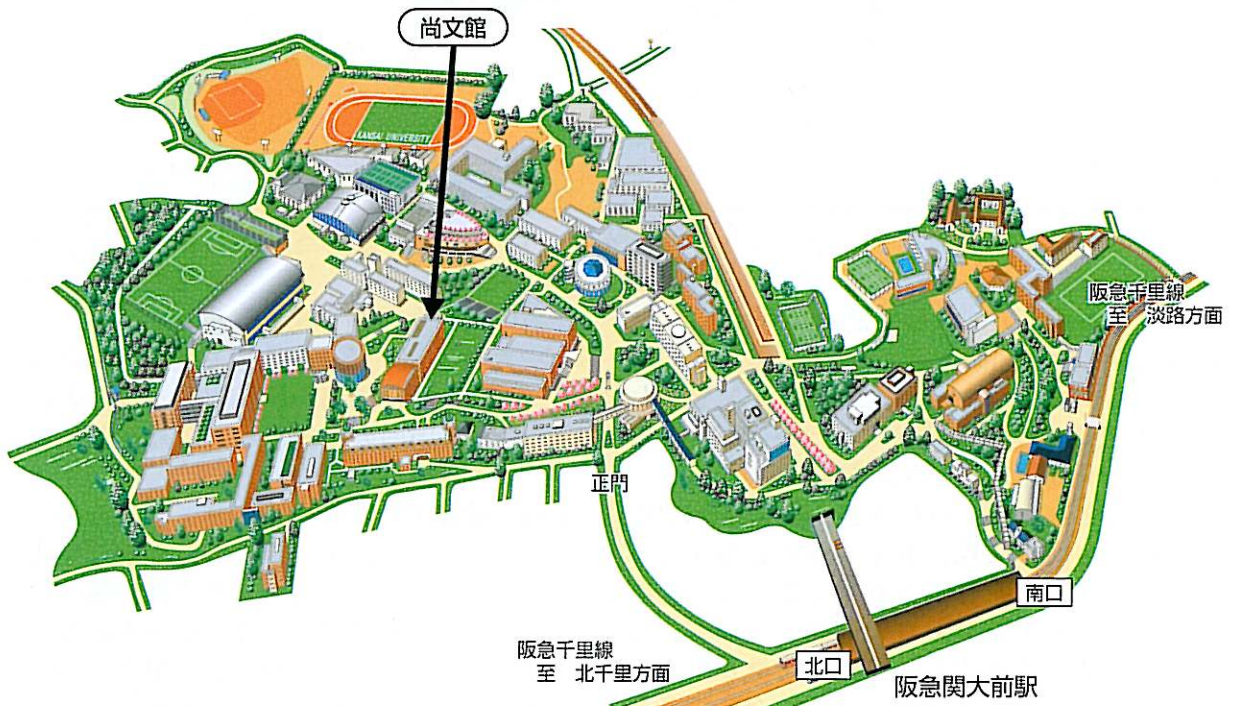


1964年生
1986年2月 ソウル大学人類学科卒業
1995年3月 東京大学人文社会系研究科(日本史学専攻)修了
研究領域：日本近現代史専攻
著書：『歴史と責任－「慰安婦」問題と一九九〇年代』(青弓社、2008年、共著)、『アジアの歴史政策：日中韓対話と歴史認識』(明石書店、2008年、共著)など
論文：『韓国における過去事清算と歴史論争』日本の戦争責任資料センター『季刊戦争責任研究』66号(2009年)、『帝国統合の機制としての天皇制とその変化』『韓日関係史研究』32輯(韓国、2009年)など

マルティン・リーパッハ (フリッツ・パウアー研究所ユダヤ博物館教育部門長)



1961年生
1994年 ベルリン自由大学で博士号取得(政治学)
1995年 ヘッセン州で歴史学と数学のギムナジウム教員資格取得
1998年～ レオ・ベック研究所研究員
1999年～ フランクフルト、リービヒ・ヨーロッパ高等学校、フランクフルト大学、歴史学講座非常勤講師、フランクフルト・ユダヤ博物館 教育部門勤務
2009年～ フリッツ・パウアー研究所、ユダヤ博物館 教育部門長
著書・論文：“Und keiner hat für uns Kaddisch gesagt…” Deportationen aus Frankfurt am Main 1941 bis 1945. (『誰も私たちのためにお祈りをしなかった…』1941年から1945年の間のフランクフルトからの追放) Pädagogische Schriftenreihe Jüdisches Museum Frankfurt, 2005, Nr.6.
Vater Courage - Oskar Schindler (Schriftenreihe Hessische Landeszentrale für politische Bildung, 2008) (『勇気ある親父—オスカー・シンドラの生涯』ヘッセン州市民教育センター刊)など
2010年8月ソウルでの国際シンポジウム「歴史学習の場としての博物館と記念館—ヨーロッパと東アジアの比較」招待講師。歴史教師としての実践や教員養成にも関わりながら、ナチ時代の記憶継承の問題と歴史教育の関係について研究



関西大学人権問題研究室 <http://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>

連絡先：関西大学人権問題研究室 Tel:06-6368-1182 E-mail:jinkenken@ml.kandai.jp